SDGs Discovery Field Work in 大津

くらし 支えるパートナー
大津市企業局

RITSUMEIKAN

2020 年度
活動報告書

琵琶湖のために。未来のために。

大津市企業局 × SDGs × 立命館大学

Contents

企画概要

・本企画について　P2

フィールドワーク　P3-P6

1. レクチャー　P3
   SDGs を利用した広報戦略について
   （講師：大津市企業局　仁志出 彰子氏）

2. 現場見学　P4

3. 意見交換・発見の共有　P5-P6

まとめ　P7-P8

1. 今後の展望　P7

2. 参加者の声　P7-P8

企画概要

内容

SDGs Discovery Field Work in 大津 は SDGs の観点から水道水の持続可能性を考える 1 日完結型のプログラムです。大津市企業局と立命館大学の学生が水道水の持続可能性について共に考え・学びます。見学や意見交換を通して、当たり前を「再発見 」することを目標としています。

背景

立命館大学の学生約 40 人に実施したアンケートにおいて、59% の学生が水道水を飲み水として利用していないことがわかりました。理由として、飲み水として利用しない学生の 70% が「おいしくないから」、27% が「安全性に疑問があるから」と答えました。

企業局では「SDGs を意識した広報戦略」を用いて、水道水を持続可能なものにする取り組みをされています。そこで、「日本の水道水が安全であることの尊さ」「水道水を守る企業局の取り組みを多くの方に認識していただくため本プログラムを企画しました。

目標

参加者全員が考え・学び・発信できるようなプログラムを目標としました。

1. 水道水の安全性・魅力を参加者が再発見する
2. 課題や発見したことを発信する
3. 大津市企業局の取り組みを周知させる

今回のプログラムには立命館大学の学生や立命館 SDGs 推進本部イノベーション・オーガナイザーの上田隼也氏にご参加いただきました。

コロナウイルスの関係上、人数は最小限でしたが、文学部・理工学部・映像学部よりご参加いただきました。その結果、各自の専攻分野を問わず多様な意見や考え方が発信され有意義な意見交換となりました。

ご協力いただいた大津市企業局、立命館大学の皆様に感謝申し上げます。

フィールドワーク

レクチャー

「SDGs を意識した広報戦略」
（講師：仁志出 彰子氏）

現場見学

浄水場見学
（柳が崎浄水場）

リフレクション

意見交換
フィードバック

1. レクチャー

Column

大津市企業局とは

大津市企業局は水道・ガスを経営する公営企業。2020 年 6 月 1 日より SNS アプリ LINE で水道・ガスの利用・休止申請が可能になるなど時代のニーズにあったサービスを提供している。

レクチャーでは、大津市企業局 経営戦略室 仁志出彰子氏より「SDGs を意識した広報戦略」について講演していただきました。講演の内容は以下の通りです。

なぜ企業局で SDGs ？

“当たり前に出る水道水に感謝する” ーこのことを広報するために大津市企業局では、「SDGs を意識した広報戦略」を行っています。大津市では琵琶湖の水を使い琵琶湖に戻しています。琵琶湖から琵琶湖への水の循環と持続可能性との親和性から、SDGs を意識した広報戦略は始まりました。

海なし県が取り組むプラスチックゴミ問題

最近流行のプラごみ問題。実は琵琶湖にもプラごみ問題は存在しています。そこで、少し変わったマイボトル運動が始められました。「世界に一つだけのマイボトル運動」は幼稚園などで子どもがデザインしたマイボトルを親に渡すというものです。子どもから大人へのマイボトル運動の啓発です。ポイントは心も体もうるおい、自然に取り組める点です。

2．現場見学 @ 柳が崎浄水場

実際に琵琶湖の水から水道水を作る過程を見学させていただきました。

浄水場処理フロー

琵琶湖から取水された水はどのような過程を経て水道水になるのかをイラストと職員の方の解説で学びました。

水利使用標識

琵琶湖の水は「国」のものです。
その水を使う際には水利使用標識を明記します。よって、取水量も規定値を守り続けられています。

水の処理過程

急速ろ過方式の処理過程です。
写真はフロック形成池です。凝集剤で汚れを固めフロックという沈殿物を形成します。速さの異なる攪拌機で徐々にフロックを大きくしていきます。

急速ろ過・緩速ろ過

急速ろ過は薬品を使います。一方、緩速ろ過は砂・微生物を用いてろ過をします。急速ろ過方式は都市部の水道水を供給する浄水場で広く使用されています。

柳が崎浄水場についてはこちらから→
https://bit.ly/3jCcGLI

３．意見交換・発見の共有

リフレクションでは、最初に水質管理課の方より浄水場の取り組みについて講演いただきました。また、「利き水体験」をさせていただき、ミネラルウォーターと水道水の飲み比べをしました。

水質管理課の方からの講演内容は以下の通りです。

水道事業の SDGs

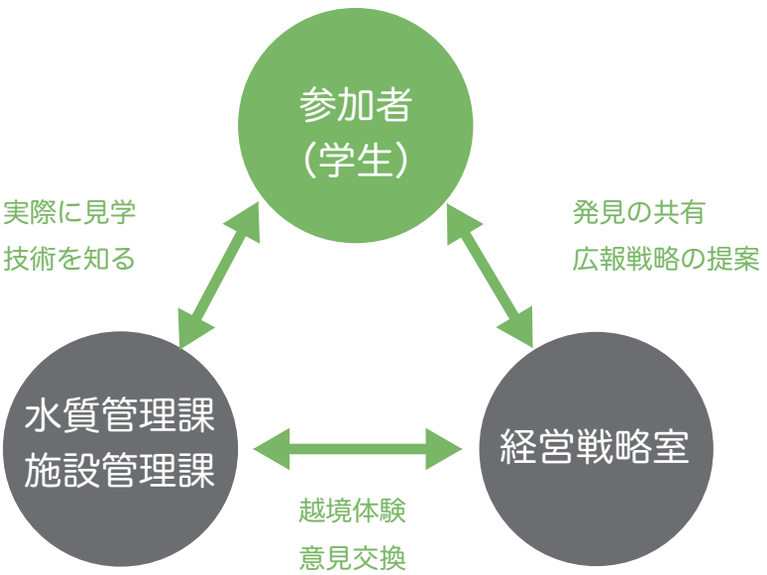
水道水は公衆衛生の向上を目的として、51 項目の水質基準項目をクリアしています。これは SDGs のゴール 6「安全な水とトイレを世界中に」に当てはまります。

また、「水道事業の広域化」として、水道はそれぞれ別だができることは一緒にやっていくという SDGs のゴール 17「パートナーシップで目標を達成しよう」の取り組みもされています

塩素は安全性の裏返し

水道水は「塩素臭い」とよく言われます。飲み水にはミネラルウォーターを購入している方も多いのが現状です。しかし、水道技術は発達し、水道水の質は日々向上しています。「水のおいしさ」は見方の違いであり、水道水が「塩素臭い」のは安全な水の証拠であると言えます。

意見交換には、大津市企業局経営戦略室、施設整備課、水質管理課、立命館大学の学生の方々にご参加いただきました。以下は意見交換の際のまとめです。



SDGs の観点でそれぞれをつなげ、個々の発見や意見を共有することで、新たな発見や広報戦略につなげることを目標としました。

その取り組み SDGs ですよ！（経営戦略室より）

大津市企業局では、他部署との連携の際に「身近に落とし込んで」「実行する」取り組みを行われています。各部署の素晴らしい取り組みをつなげることが、自然と SDGs につながっています。

浄水場での取り組みが「その取り組み SDGs ですよ」と広報から言われることがあるそうです。

キーワードは水の地産地消！（水質管理課・施設整備課より）

大津市企業局は水源としての琵琶湖を守るために環境保護に取り組んでいます。

「水の地産地消」がキーワードです。水道水を飲み水として認識してもらい利用してもらうというものです。しかし、この取り組みの難しさは他都市にはアピールできない点だと職員の方は語ります。

海は世界とつながっている。でも琵琶湖は滋賀県内だけ。だからプラごみ問題に実感がわかない！（学生より）

参加者の学生の意見です。最近よく聞く海洋プラスチック問題、実は琵琶湖にもプラゴミ問題は存在しています。海洋プラスチック問題は国際的な問題のように感じます。それは海が世界とつながっているからです。しかし、琵琶湖は滋賀県内で完結してます。その影響で、他府県の人からすると、この問題に対し関心が持ちにくいのではないかという意見です

まとめ

1. 今後の展望

情報の発信

参加者が発見したことを発信・共有することで、水道水は「飲み水」であるという認識を広めます。

企業局の知名度向上

参加者が共有した発見や意見を利用し新たな視点を用いて効果的な広報活動に繋げます。

SDGs との繋がり

参加者が大津市企業局の SDGs の取り組みを学習したことをきっかけに、社会課題を自分ごとに捉えることを目標にします。そして、解決策「マイプロジェクト」を持つことで、日々の学習と社会課題を結び付けて考えることを目指します。

2. プログラム参加者の声

水道水は様々な人の努力で成り立っている。

本ツアーでは普段何気なく使用している水が、さまざまな人の日々の努力の上に成り立っているのだと実感できるとてもいい体験となりました。
特に、滋賀県独自の浄水施設はとてもユニークで同じ水とは言ってもその土地の特色を加味した千差万別な方法で浄水されていて私たちのもとに届いているということなどととても勉強になることが多くありました。（映像学部４回生）

五感を持って学べたツアー

水道水は、あるのが当たり前というイメージを持っていましたが、その当たり前の裏の部分について知ることができました。水道法による厳しい基準をクリアした水が、どのように取水・浄化・送水されていくのか。水道水を持続的に供給し続けるために、未来を見据えた戦略を立てようとしている姿。普段はみることができない日常を支えている企業局の皆さんを知ることができる貴重な機会でした。
また、普段は入れない施設も見学させて頂き、五感を持って学べたツアーとなりました。企業局の取り組みについて発信していくとともに、ぜひ、多くの方にも参加して欲しいツアーです。

企画実施にあたり、事前アンケートに立命館大学の約 40 人の学生の方にご協力いただきました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

3. プログラム企画者より

いかなる時も途絶えることなく水道水を届けるという使命

立命館大学の方から水道のことや SDGs の取組みを教えてほしいと連絡を受け何度かお話させていただき、笹井さんが浄水場見学を含めたこの企画を行なってくれました。リフレクションでは純粋な疑問を投げていただき意見交換するうちに職員が学ぶ場面も多く、このような機会をいただき感謝しています。この期間は、コロナウィルスの影響でいかに「当たり前」が幸せなことか思い知ることになりました。

私たちは、みなさんが「当たり前」の生活が送れるよう、いかなる時も途絶えることなく水道水を届けるという使命を持って働いています。この報告書を読まれた皆さんが、「当たり前に出る水道水」のことを少し考えるきっかけになると嬉しいです。

（大津市企業局　仁志出 彰子）

広報戦略で水道水を持続可能なものに。ゴール 6 達成の新たな方法。

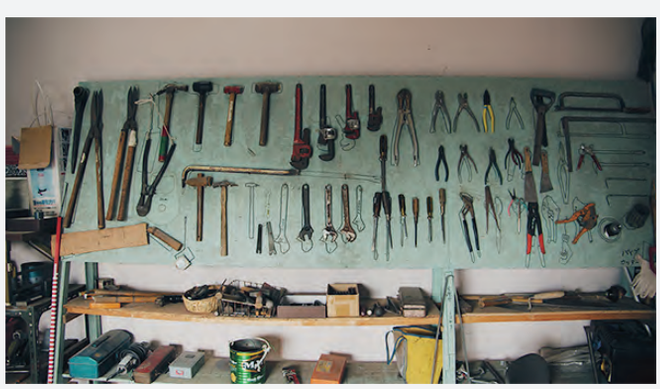
大津市企業局の協力のもと「柳が崎浄水場」を見学させていただきました。私たちが何気なく使っている水道水。その蛇口の向こう側では多くのプロフェッショナルな方々が、高度な技術で水道水を生み出しています。素晴らしい技術をどう伝えるのか。そこで利用されたのが SDGs です。専門的な領域と社会とを SDGs を利用した広報戦略でつなぐ。広報戦略で水道水を持続可能なものにする。ゴール 6 達成の新たな方法であると感じました。

企業局の仁志出さんには企画段階からお世話になりました。心よりお礼申し上げます。写真を撮影してくださった谷口さん（映像 4）、当日ご参加いただいた企業局職員の皆様、立命館大学の学生の皆様にも心よりお礼申し上げます。

（立命館大学　理工学部３回生　笹井 貴央）

立命館大学 SDGs の取り組みについてはこちらから→

（立命館大学公式 HP）
http://www.ritsumei.ac.jp/sdgs/



琵琶湖のために。未来のために。

今、考えよう。

大津市企業局 × SDGs × 立命館大学

SDGs Discovery Field Work In 大津

活動報告書

文責：笹井貴央
（立命館大学理工学部環境都市工学科 3 回生）
E-mail: ce0004hs@ed.ritsumei.ac.jp

協力：大津市企業局
滋賀県大津市御陵町 3 番 1 号
2020 年 7 月 24 日初版発行